ほんばこ



 $_{No.}$ 53

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 53 号 (通巻第 69 号) 2017 年 7 月 18 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教 育 図 書 館

Tel/Fax: 03 (3230) 4437

Mail: toshokan32304437@jec.or.jp

http://www.jec.or.jp/tosho/

● 目 次 ●

・』私の愛する街、神保町』	滕野 止和	$2{\sim}3\mathrm{p}$
・教育図書館の資料紹介		4 p
· 《専門図書館紹介》		
公益財団法人教科書研究センター 附加	属教科書図書館	5 p
・最近の受入図書(2017年4月~2017年7月受入)	6∼7 p
・教育図書館のご案内		8 p

私の愛する街、神保町

藤野正和

わが青春の街、神保町

1972年秋、九州の高校生だった私は、夜行列車と新幹線とバスを乗り継ぎ修学旅行で初めて東京を訪れた。宿泊したのは御茶ノ水にあった日本学生会館。自由行動の時間に友人たちと向かったのが初めての神保町だった。その時、三茶書房で買った五木寛之の小説は今でも書棚の隅にある。

1975年大学に入り上京してからは、足繁く神保町に通うようになった。よく覗いたのは、南海堂書店、小宮山書店。ある日、白山通りの丸沼書店の店頭に、1916(大正5)年に早稲田大



学出版部が発行した 『大日本時代史』(久 米邦武著の「南北朝時 代史」ほか)が一冊 300円で投げ売りされ ているのを発見。大喜 びして「鎌倉時代史」 など四冊購入したが、 何せ一冊600ページを

超える大著四冊、重くて持ち帰るのに大変苦労 したのを覚えている。この本は今でも時折開い ている。

また、そのころジャズが好きになった私は神 保町でよく植草甚一氏を見かけた。彼の書いた 独特のリズミカルな文体の本をよく読んだこと を思い出す。

1981年に都立高校の教員になってからは、勤務校が定時制であったこと、当時の都立高校には研修日という制度があり、週一日を研究と修養のために有効に使用することができたため、国会図書館とともに神保町を頻繁に訪れるようになった。

1986年からは都高教(東京都高等学校教職員組合)の役員になったので、週に二日は日本教育会館に通うようになり、神保町通いがさらに増した。そのころよく行ったのが、餃子のおけい(さくら通りと靖国通りの間にあった)、焼肉二幸園(靖国通りの今の吉野家のところ)、中華料理の源来軒(みずほ銀行裏梅の湯の向かい)。先輩たちに時折連れて行ってもらったのが、東洋キネマ跡の裏通りにあった纏寿司とラドリオ。ラドリオ以外はどこも閉店・移転してしまった。

1996年に、組合役員を辞め学校現場に完全復帰したが、神保町通いは止まらなかった。このころから教材開発にも熱中した。よく利用したのが古書センター6階にあったアベノスタンプ。エレベーターを降りると古い映画のポスターやパンフレットが雑然と積み重ねられ、古手紙や葉書が詰まった箱が何箱も積み上げてあって、まるでゴミ置き場と見まがうばかり、しかし、その中にお宝が隠れている。この店で、明治10年の手書きの地券、満鉄の株券、明治時代の貨幣・紙幣、その他を入手した。みな結構な値が…。これらの教材をいくらで購入したかは、家族にも未だに秘密にしている。

4年前、都高教の役員に復帰し、18年ぶりに神保町勤務となった。毎日神保町を歩き、飯を食い酒を飲み、帰りには必ず本屋に入り、気が向けば何冊か本を購入する。本好きの私にとって、なんと幸せな環境であろう。考えてみると私の本棚の書籍の7割以上は神保町で購入したものだ。

世界遺産的 "本の街" 神田神保町を知る

そんな私にとって、何とも魅力のある本に出 会った。『神田神保町書肆街考一世界遺産的"本 の街"の誕生から現在まで』(筑摩書房)である。 著者の鹿島茂さんは長く共立女子大学に勤



済・教育・飲食など様々な観点から考察し社会 史的に鳥瞰した560ページを超える大著である。

"古書の街" の始まり

鹿島さんによれば、神保町が古書の街になったきっかけは明治時代の初め現在の錦町から一ツ橋に東京大学や一橋大学の前身である東京商業学校、東京外国語学校などの官立学校が次々と創られたことに始まる。さらに周辺に後の明治大学・中央大学・法政大学・専修大学・日本大学などの前身の私立の法律専門学校や、共立女子職業学校などが設立され、予備校・専門学校などができ、神保町周辺は瞬く間に学生の街となり、このことが学生を対象とした古書店が登場するきっかけとなったことが明かされる。

興味深い古書店創業者たちのエピソード

有斐閣、三省堂書店、冨山房、東京堂、高山本店、一誠堂書店などの創業者たちは誰もが個性的で、その逸話は興味深い。中でも高山本店創業者で、日本教育会館理事の高山肇さんのお祖父さんに当たる高山清太郎氏の逸話は極めつけのおもしろさである。

チャイナタウン神保町と留学生

神保町には中華料理店が多い。明治末から大正・昭和にかけてすずらん通りさくら通りは一大中華街 (チャイナタウン) であった。中国 (清国・中華民国) からやってきた多数の留学生のための東亜高等予備学校をはじめとする日本語学校や留学生会館が神保町周辺に固まり、各私立大学は留学生受け入れ態勢を作り、ここで学ぶ留学生らを相手に中華料理店が店を構えるようになった。周恩来や魯迅もここで学び食事をした留学生の一人だったことが明かされる。

また、次のような驚きの事実も記されている。 後の中国共産党の幹部にはマルクス主義・社会 主義の学習を目的に日本に留学していた学生が 何人もおり、彼らは神保町の書店で入手した書 物でマルクス主義・社会主義を学び中国に持ち 帰っていた。鹿島さんは「…中国共産党の思 想・文学関係のかなりの部分がほかならぬ神田 神保町で準備され…神田神保町は中国共産党揺 籃の地」と述べている。

語り尽くせぬその魅力

そして映画館の街としての神保町、戦後の神保町、語り尽くせないおもしろさ、登場人物の 多彩さ、神保町のことをもっと知り、より楽し むためにぜひ一読されることをお勧めしたい。

(東京都高等学校教職員組合執行委員長・ 日本教育会館理事)

*『神田神保町書肆街考一世界遺産的"本の街" の誕生から現在まで』(筑摩書房 2017年2月 刊)は、日本教育会館理事の髙山肇様より寄贈 いただき、当館の所蔵図書です。

教育図書館の資料紹介

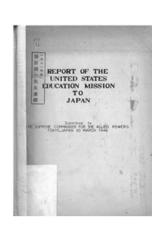
教育図書館には、戦後の教育や教育運動を知る手がかりとなる貴重な資料があります。日本の教育に関わる2点をご紹介します。

1945 (昭和20) 年8月15日から1952年まで日本の国政がすべて占領行政のもとに行なわれていました。連合国軍最高司令官総司令部は、最高責任者としての連合国軍最高司令官 SCAP (Supreme Commander for the Allied Powers)、総司令部はGHQ (General Headquarters)や進駐軍という通称が用いられました。

Report of the United States Education Mission to Japan

(米国教育使節団報告書)

総司令部は1946 年1月日本に向けて教育をはる事情である。 ででは、では、では、では、できますでは、できますでは、では、できまないでは、できまないでは、できまないでは、できません。。



「彼らは日本に一か月滞在して教育現場を視察したり、教育学者と意見交換したりして、3 月末に報告書をマッカーサー連合国軍最高司令官に提出して帰って行った。

その報告書は、日本の戦前の国家主義・軍国主義教育を解体し、平和と民主主義を重んじる日本国民を育成する教育の方針を示していた。 具体的には中学校までを無償の義務教育とする六三制、男女共学、公職性の教育委員会による教育の地方分権、教育の自由、組合の必要性な どが盛り込まれていた。」(引用: 『槙枝元文回 想録』発行アドバンテージサーバー 2008年刊)

*当館所蔵の資料は1981年に宮原誠一先生から遺贈されたものです。

『新教育指針』

『米国教育使節団報告書』をうけて文部省は 教師のための手引書「新教育指針」をつくり、 1946年5月に発行、全国の学校に配布した。

「その発行は使節団報告書の発表後であるが、編集は二十年秋から企画され、総司令部の指導のもとに幾度も書き改めたもので、表現も平易で常用漢字の範囲内で書かれていることも国語改革と関連して注目される。」(文部省ホームページ)

「『新教育指針』は二部から成り、第一部は前編が「新日本建設の根本問題」とし、①序論-日本の現状と国民の反省②軍国主義および極端な国家主義の除去 ③人間性、人格、個性の尊重



④科学的水準および哲学的・宗教的教養の向上 ⑤民主主義の徹底 ⑥結論-平和的文化国家の 建設と教育者の使命の六章にわかれていた。

後編は七章にわかれ、女子教育の向上、科学的教養の普及などにふれていた。第二部は、教材の選び方四章があてられていた。」(引用:『教育への直言』槙枝元文著毎日新聞社 1972年刊)

当館には『新教育指針』四分冊(第1分冊 第一部前編「新日本建設の根本問題」1章より 3章まで・第2分冊 4章より6章まで・第3 分冊 第一部後編「新日本教育の重點」第4分 冊 第二部新教育の方法)ともに『新教育指針 録マッカーサー司令部発教育関係指令』原本が 合本してあり、閲覧することができます。

≪専門図書館紹介≫

公益財団法人教科書研究センター 附属教科書図書館

開館日 · 開館時間

月曜日~水曜日 9:30~16:30

〒135-0015東京都江東区千石1丁目9番28号 教科書研究センター2階

電話: 03-5606-4314 FAX: 03-5606-4392

戦後の教科書を見たいのであればこの図書館 …と伺っていたので、行ってきました。自分の 目で確かめなければ、問い合わせがあった場合 に自信を持って勧められない、専門図書館とし て伺ってみたいと思っていました。

地下鉄東西線の東陽町の西出口1より 錦糸町駅行バスに乗って千石2丁目の停留所から2~3分歩いたところでした。教科書研究センターのしっかりした建物の2階スペース。

入館手続は、2階の図書館受付で利用票に記入、バッジを受け取り、退館の際にお返しします。閲覧に必要ない所持品等手荷物は、入口のロッカーに預けます。100円を入れて戻ってくるようになっています。資料の館外貸出しは行っていません。また、高等学校生徒以下の方は原則として入館できません。

広い閲覧スペースと開架に類されて置かれている教科書。小学校、中学校、高等学校に分けられ、各教科、教科書会社ごとに古い順に置かれています。

開架、予約なしで利用できるのはここだけで、他の専門図書館、教科書関係の東書文庫や、 国立教育政策研究所の教育図書館では、予約が 必要になります。一般の図書館のように手に 取って、自由に閲覧できるのは何より魅力です。



戦後の教科書については、センターのホームページから教科書目録情報データベース(教科書図書館 所蔵資料検索ページ)にアクセスすれば、教科、発行会社、使用年度などから所蔵を検索できます。教科書関連資料、教師用指導書についても調べられます。

以前、「自分の中学時代の教科書が見たい。」 という利用者がありました。私がお昼の休憩から戻ってくると、受付のところに座っており、 別の担当者から説明を受け、教科書研究センター附属教科書図書館の住所をメモしているということでした。当教育図書館所蔵の教科書は、戦前の復刻版などがおもで、一般の教科書はほとんど所蔵していません。交代してしばらくすると、「紹介されても、行くお金もない。」と不満そうに、他の方法がないのかと話してきました。中学の時から満足に学校に行けなくて、当時の教科書をみたいとのことでした。教科書について詳しくない私は、困ってしまいました。

教科書図書館には、3~4名の利用者がいましたが、外の雨の音が伝わってくるだけで、とても静かでした。小学校、中学校の国語の教科書を年代順ごとに眺め、時代の流れと違いを感じました。かつての東京オリンピックの記述やドーデの『最後の授業』がいつごろなくなったかなど、教科書を通して時代を見ることができます。機会があったら、ぜひ行ってみてください。

最近の受入図書

(2017年4月~2017年7月受入)

【日教組刊行物】

『わたしたちの青年部運動』第31集(2006年)~ 第42集(2017年)日本教職員組合青年部編 ㈱ アドバンテージサーバー

『高校教育シンポジウム要項』合本3冊

2006-2009年度(第25-28回)

2010-2014年度(第29-33回)

2015-2016年度(第34-35回)

日本教職員組合編 日本教職員組合

『日教組 両性の自立と平等をめざす教育研究会』

2013~2015年度 日本教職員組合編

『**日本の教育**』第66集 日本教職員組合編著 ㈱ アドバンテージサーバー 2017.05

『いんふぉめ一しょん子どもの人権連』

No. 139-151 子どもの人権連事務局編

『学校図書館全国集会要項·報告書』

2012-2014年 日本教職員組合編

【教育総研刊行物】

『季刊フォーラム教育と文化』87号 (2017 Spring) 教育文化総合研究所編 ㈱アドバンテージサー バー 2017.4

【文部科学省刊行物】

『文部科学統計要覧』平成29年版(2017)文部科学省著 株式会社 白橋 2017.3

『諸外国の初等中等教育』第128集 文部科学省 著 財務省印刷局 2002.8

『社会教育統計(社会教育調査報告書)』平成27 年度 文部科学省生涯学習政策局著 ㈱ブルー ホップ 2017.5

『**教育調査 第152集 世界の学校大系**』文部科 学省著 ぎょうせい 2017.4

【平和資料】

『白梅学徒隊きくさんの沖縄戦』比嘉美津枝文 磯崎主佳絵 中山きく [証言] 沖縄県退職教 職員会女性部 沖教組教育研究所 2013.6

『サトウキビがたべたい』松原慶子文 磯崎主佳 絵 沖縄県退職教職員会女性部 沖教組教育研 究所 2008.5

『原爆ドーム』 頴原澄子著 吉川弘文館 2016.8

【和雑誌】

『教育委員会月報』平成29年4月号(通巻第811号)~平成29年6月号(通巻第813号) 第一 法規

【閲覧用雑誌】

『**教育と医学**』2017年4月号~6月号 『**教職研修**』2017年4月号~6月号

【防災・減災】

『写真集 関東大震災』北原糸子編著、吉川弘文 館 2010.4

【社会・教育】

『大田堯自撰集成』大田堯著 藤原書店 2013.111巻:生きることは学ぶこと 教育はアート2巻:ちがう・かかわる・かわる 基本的人権と教育

3巻:生きて 思索と行動の軌跡 4巻:教育を通しての人間研究

『LINEで子どもがバカになる:「日本語」大 崩壊』矢野耕平著 講談社 2016.4

『**家庭教育は誰のもの?**』木村涼子著 岩波書店 2017.5

『グローバル人材教育とその質保証』大学改革支援・学位授与機構編著 ぎょうせい 2017.4 『現代子ども文化考』山中恒著 勁草書房 2017.3

『消えゆく「限界大学」』 小川洋著 白水社

2017.1

『アメリカ教師教育史』佐久間亜紀著 東京大学 出版会 2017.2

『スマホ時代の親たちへ』藤川大祐著 大空出版 2016.4

『**日本国民をつくった教育**』沖田行司著 ミネル ヴァ書房 2017.1

『**戦後日本の女性教員運動と「自立」教育の誕生**』 木村松子著 学文社 2017.3

『**教育思想のポストモダン**』下司晶著 勁草書房 2016.12

『子どもとお金』高橋登、山本登志哉編 東京大 学出版会 2016.9

『日本教育学の系譜』小笠原道雄、田中毎美、森 田尚人、矢野智司著 勁草書房 2014.8

『1968』上・下 小熊英二著 新曜社 2009.11 『教育の危機』 P. カロギアナキス、K. G. カラス、C. C. ヴォルフターほか著 天童睦子監訳 東洋館出版 2017.3

『途上国世界の教育と開発』小松太郎編 上智大 学出版会 2017.3

『「母と子」という病』高橋和巳著 筑摩書房 2016.12

『サピエンス全史』上・下 ユヴァル・ノア・ハ ラリ著 河出書房新社 2016.9

『共謀罪の何が問題か』高山佳奈子著 岩波書店 2017.5

『ドライバーレス革命』ホッド・リプソン メル バ・カーマン著 山田美明訳 日経BPマーケ ティング 2017.6

『勉強の哲学』千葉雅也著 文藝春秋 2017.5 『こどもたちの階級闘争』ブレイディみかこ著 みすず書房 2017.4

『インドから考える』アマルティア・セン著 山 形浩生訳 NTT出版 2016.9

『大学への教育投資と世代間所得移転』樋口美雄 萩原里紗編著 勁草書房 2017.3 『正社員消滅』 竹信三恵子著 朝日新聞出版 2017.3

『「死ぬくらいなら会社辞めれば」ができない理由(ワケ)』沙街コナ著 ゆうきゆう監修・執 筆協力 あさ出版 2017.4

『裸足で逃げる:沖縄の夜の街の少女たち』上間 陽著 太田出版 2017.2

『高校生のための憲法入門』斎藤一久著 三省堂 2017.5

『貧困クライシス』藤田孝典著 毎日新聞出版 2017 2

『こんな教師になってほしい』逸見博昌著 悠光 堂 2017.5

【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】

『アキラとあきら』池井戸潤著 徳間書店 2017.5 『サイコパス』中野信子著 文藝春秋 2016.11 『夜の谷を行く』桐野夏生著 文藝春秋 2017.3 『ひとりを怖れない』矢作直樹著 小学館 2016.7 『陸王』池井戸潤著 集英社 2016.7

『劇場』又吉直樹著 新潮社 2017.5

『雄鷹たちの日々』斉東野人著 2017.1

『**竜宮城と七夕さま**』浅田次郎著 小学館 2017.6 『**月の満ち欠け**』佐藤正午著 岩波書店 2017.4

編集後記

高山様からご寄贈の『神田神保町書肆街考ー世界遺産的"本の街"の誕生から現在まで』 (筑摩書房)を、藤野様がお読みになり、今回の『私の愛する街、神保町』になりました。神保町に対する皆様方の思いが伝わってきます。 古書の伝える歴史や、文化、その街を愛し、守っていくのは人の力なのだと思います。教育図書館も貴重な資料を守り、伝えていきたいと思います。高山様、藤野様、ありがとうございます。(川内)

教育図書館案内

* 開館時間:10:00 ~ 16:30

* **休 館 日**: 土曜・日曜日、国民の祝日、 夏期及び年末年始の休館日、臨時休館日

* 蔵書の貸出

貸出冊数:5冊/貸出期間:3週間 館外貸出には、利用者登録が必要です。 (ご自宅住所が確認できる身分証明書をお持ち 下さい。受付で貸出カードを発行します。)

* 返却方法

開館中 カウンター受付へ

閉館時 「ブック・ポスト」をご利用下さい。

設置場所: 5 F 図書館入口前

* レファレンス・サービス

当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせに対応しています。

* コピーサービス

(白黒1枚10円/カラー30円)

特別コーナー

● 平和資料コーナー:

反核 (原発関連を含む) ・平和運動、平和教 育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など

● 日教組刊行物コーナー:

日教組教育新聞・雑誌(「教育評論」「月刊 JTU」など)、教育政策、教育課程、教科 書問題、各部の図書・資料など

● 教育総研刊行物コーナー:

年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」、各研究委員会報告書など このほか旧国民教育研究所時代のあらゆる刊行物も含む

- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- ▼ 文部科学省統計調査報告書・刊行物:学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導

要領、指導書など

- 海老原治善文庫:元東京学芸大学教授、教育 総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書
- **鈴木喜代春文庫**:児童文学者、元教育相談室 相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書

蔵書の特徴

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・ 洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 2017年4月現在約66,800冊になります。
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面 から検索できます。

(https://ilisod001.apsel.jp/kyoikutoshokan.lib/wopc/pc/pages/TopPage.jsp)

● 千代田区立図書館のホームページ「大学・専門図書館横断検索」からも教育図書館の蔵書が検索できます。

交 通 案 内

神保町駅 A1出口より徒歩3分 九段下駅 6番出口より徒歩7分

竹橋駅 1 b 出口より徒歩5分

水道橋駅西口 徒歩12分(JR総武線)

